

第2号議案

社会資本整備総合交付金事業(道路改築)

国道354号 おおいずみおうら 大泉邑楽バイパス 大泉町～邑楽町

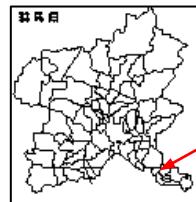
着工年度 平成8年度

評価理由 再評価後5年経過

1. 事業の目的

・高崎市から板倉町までを結ぶ「東毛広域幹線道路」の一部区間であり、7つの交通軸のうち東毛軸の主要幹線道路である。

・国道354号の大泉区間は慢性的に混雑しており、特に朝夕の渋滞が著しいことから、混雑解消のためバイパス整備および現道拡幅を行うものである。



事業箇所



渋滞する国道354号(現道)



大泉邑楽バイパス
L = 4,850m

2. 事業概要と進捗状況

事業概要

事業場所	おおいずみまち きたこいずみ おうらまち しづか 大泉町北小泉～邑楽町篠塚	
区分	今回	前回再評価時
全体事業費	8,200百万円	10,200百万円
全体事業費増減の理由	用地・補償費、工事費の減額	
事業期間	H8～H25	H8～H25
事業内容	道路延長 4,850m 幅員 25.0m	道路延長 4,850m 幅員 25.0m

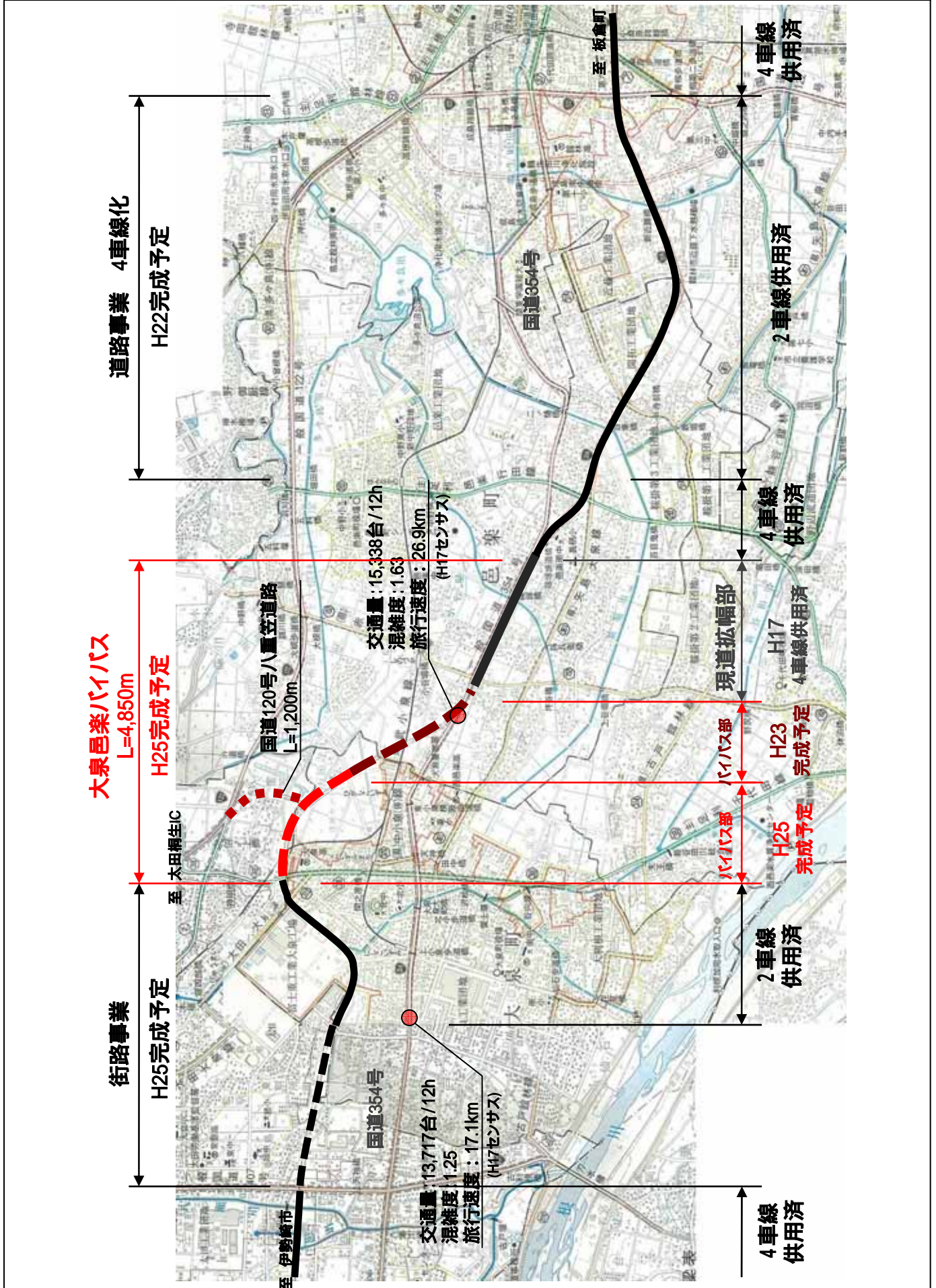
事業経緯

年度	主な経緯
H8	現道拡幅部 用地買収着手
H11	現道拡幅部 着工
H15	現道拡幅部 一部供用(1,200m)
H16	バイパス部 用地買収着手
H17	現道拡幅部 全線供用(1,800m)
H21	バイパス部 用地買収完了

進捗状況

	全体計画	現在の進捗状況(進捗率)	前回評価時の進捗状況(進捗率)
事業費	8,200百万円	6,187百万円 (75.5%)	2,984百万円 (36.4%)
用地買収	141,000m ²	140,500m ² (99.6%)	57,330m ² (40.7%)
計画延長	4,850m	1,800m (37.1%)	1,400m (28.9%)

2. 事業概要と進捗状況(図面・写真等)



3. 事業の目的・必要性に変化はあるのか？

現道の交通量は増加傾向にあり、本工区の現道拡幅部(4車線)の供用後も混雑は継続している。本工区のバイパス部工事を早期に完了し、渋滞解消を図る必要がある。

また、北関東自動車道 太田・桐生ICへのアクセスを強化する事業として、平成21年度から国道122号八重笠道路を整備中であり、接続先となる大泉邑楽バイパスの整備は必要不可欠である。



渋滞する国道354号(現道)



渋滞する国道354号(現道)

混雑率の変化

調査年度	乗用車換算交通量 (台/12h)	混雑率
H11	16,352	1.45
H17	17,552	1.63

測定場所: 邑楽町大字篠塚2785

4. 目的を達成するための事業(手段)は適当か？

・全体事業費精査の結果、当初事業費から約20億円の減額となっている。(用地・補償費約12億円減、工事費約8億円減)

・優先区間を設定し、順次供用を図ることで事業効果の早期発現に努めており、平成17年度には現道拡幅部を供用済である。また、平成23年度までにバイパス部の区間の工事を完了する予定である。



現道拡幅部(4車線化済み)



現道拡幅部(4車線化済み)

費用便益分析

		計画・前回再評価時		今回再評価時		備考	便益説明
算出根拠マニュアル		費用便益分析マニュアル 国土交通省 道路局、都市・地域整備局 平成15年8月		費用便益分析マニュアル 国土交通省 道路局、都市・地域整備局 平成20年11月			
基準年		平成17年		平成21年			
区分	項目	現在価値	構成比	現在価値	構成比		
費用 (千円)	工事費	8,612,000	96.2%	9,073,000	95.0%	時間経過により、過去支出の現在価値換算額が増加	
	維持管理費	340,000	3.8%	477,000	5.0%		
費用合計(C)		8,952,000		9,550,000			
便益 (千円)	走行時間短縮便益	29,087,000	93.4%	55,146,000	87.1%	東毛広幹道の将来計画を「2車線区間あり」から「全線4車線」に変更。これにより将来交通量増加。	
	交通事故減少便益	1,585,000	5.1%	2,062,000	3.3%		
	走行経費減少便益	476,000	1.5%	6,108,000	9.6%		
便益合計(B)		31,148,000		63,316,000			
費用対効果分析(B/C)		3.48		6.63			

5. 事業が長期間要している理由は？

【元々が長期計画】

不測の事態により長期化】

全体延長L = 4.85 km、全体事業費8,200百万円と事業規模が大きいため、工区を分割し計画的に執行しているが全線開通には長期間を要する。
また、バイパス部には跨線橋が2箇所あり、鉄道事業者との調整及び施工に長期間を要することが見込まれていた。



太田跨線橋施工状況



邑楽跨線橋施工状況

両跨線橋とも鉄道事業者との協議を終え、工事着手している。

6. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし · 事業計画の変更 · スケジュールの変更

本事業は、国道354号の慢性的な混雑を解消するためのバイパス整備及び現道拡幅事業である。

事業規模が大きく、バイパス部には跨線橋が2箇所あることから、当初から長期間を要する計画となっているが、優先区間を設定して事業費を投入することで、効率的に部分供用を図り、事業効果の早期発現に努めている。

また、全体事業費の見直しにより、約20億円の減額となっている。

H21年度末までに全体事業費の約76%まで進捗しており、用地買収もほぼ完了している。また、鉄道事業者との協議も整い、跨線橋工事も推進中である。

平成25年度全線完成に向けての課題は解消されていることから、一日も早い全体効果発現に向けて工事を推進したい。

